

## 認定 NPO 法人アカツキ

### 立ち止まり対話するための助成金「AKBN（アケボノ）ファンド」第7期 募集要項

#### ■助成金プログラムの趣旨

##### 『長期的な成果のために立ち止まる』

一般的な NPO 向けの助成金や補助金は、新規事業開発や事業推進のための資金であることが多く、中には職員の人件費に使えないものもあります。そのため申請・取得のタイミングや量を間違えてしまうと、イベント実施や報告書作成といった目の前の仕事に追われ、準備や振り返りのような、組織にとって土台となる大切なこと・大切なひとに目を向けることができないまま、時間が過ぎてしまうことも少なくありません。

そこで本助成金プログラムは組織基盤整備の根本として、すぐ側にいる理事・職員・支援者と対話するために、立ち止まり、足元を確認することを目的に設立されました。「短期的な成果や収入に結びつかないが長期的に見て重要な取り組み」に必要な、管理部門の人件費やその他の費用を助成し、支援を行う制度です。

##### 『多様なコミュニティを自団体から実現する』

具体的な使途・取り組みとしては、以下が挙げられます。

- ・団体が目指す目的をはっきりした言葉にする
- ・信頼できるメンバーを見つける
- ・内部コミュニケーションの風通しを良くする

カリスマでなくても、優秀でなくても、ごく普通の市民同士が語り合い、ぶつかり合い、違いを認め合う。対話を通じた、多様な価値観と多元的な関係性が同時に成り立つコミュニティにこそ、市民社会の可能性があると考えるからです。

##### 『参加と協力の仕組みを育てる』

寄付やボランティアという形での参画には、それを受け止めて活かす力。つまり、上手な募集方法に加え、それぞれが持ち寄ったお金や時間に合わせた準備・フォロー・報告やお礼など、工夫や努力が NPO 側に求められます。

アカツキの考える NPO 法の理念は、単に社会課題解決のための事業の推進で

はなく、社会課題の解決や新しい理想のまちづくりの“プロセス”に、より多くの人が当事者として参加・協力していけるようになることです。それにより人々が互いに勇気付けられ合い、自分の可能性を知り、ゆるやかなつながりと居場所を見出していけると信じています。

「持ち寄って働く、寄り合って暮らす。それぞれの『私たち』に拓かれた社会へ」このアカツキのビジョンに共感し、今、立ち止まる勇気を持ちたい皆さんからの応募をお待ちしています。

### ■助成期間

採択決定後（7月下旬予定）から2025年3月31日までのうち、3～8ヶ月程度

### ■助成金額／件数

A. 「想い」と向き合う：20万円以内／3件

B. 「数字」と向き合う：20万円以内+15万円相当（2時間×3回程度）のアカツキと末吉税理士による伴走支援／1件 ※

※但し、個別の税額計算等に関しては対応できませんのでご了承ください

### ■対象となる取り組み（例）

以下に関する話し合い（立ち止まり対話すること）が対象となります

A. 「想い」と向き合う

- ・メンバー間の相互理解を促進するための、合宿や茶話会等の「交流」
- ・組織の想い描く、社会や地域の暮らしを言語化し、「共有する」
- ・これから出会いたい、新メンバーのイメージを「明らかにする」
- ・数年先までの方向性を検討し、「中期計画を立てる」

B. 「数字」と向き合う

- ・日々のお金の出入りを適切に記録する、「仕組みづくり」
- ・決算時期に慌てず、スムーズに集計するための「準備」
- ・自分たちが何を大切にしているかを考え、「予算計画を立てる」
- ・事務所内のファイル管理や、整理の仕方を「検討する」

### ■提出書類

別紙「応募書」をご確認ください

## ■対象となる費用

### A. 「想い」と向き合う

- ・ 取り組みに必要な人件費（管理部門にかかるものに限る）、ミーティング会場費、文具等消耗品費、飲食費、交通・宿泊費、話し合いの進行役への謝金 など

### B. 「数字」と向き合う

- ・ 上記に加えて、会計ソフト・プリンター・PC・棚やデスクなどの什器備品等も対象となります。

\*活動そのものを行うための事業費については、対象外です。

## ■対象組織の条件

### A. 「想い」と向き合う

- ・ 全国の民間非営利組織（NPO 法人・社団法人・財団法人・任意団体等）

### B. 「数字」と向き合う

- ・ 福岡県内に主たる事務所をおく民間非営利組織（同上）

## ■選考基準

- ・ 助成プログラムの趣旨と応募内容が合致しているか
- ・ 応募書の記載内容が具体的で実施に妥当性があるか
- ・ 事前に団体内部で取り組みの合意を行なっているかどうか
- ・ 取り組みに割く時間を確保しているか
- ・ 事業の財源に持続性（自主財源確保）を意識しているか
- ・ 団体が受益者と支援者に対して対等な関係性を築いているか
- ・ 団体の事業内容がビジネスに偏りすぎていないか
- ・ Web サイト等で事業報告書・決算書を公開しているか

## ■選考方法

一次審査：応募書と、Web サイトや事業報告・決算書等による書類審査

二次審査：オンラインヒアリング（団体から2名の参加をお願いします）

**【 7月20日（土）を予定 】**

\*応募数によっては、一次審査と二次審査を同日に行う場合がございます

## ■終了後の報告

- ・A4 用紙 2 枚程度の報告書類をご提出いただきます。
- ・報告書記載前に、メンバーで『ふりかえり評価』を行なって頂きます。
- ・領収書等の添付は必要ありません。
- ・終了後、報告書を Web 等に公開させて頂く予定です。

\*『ふりかえり評価』とは → <https://review.aka-tsuki.org/>

\*助成期間中においても、取り組み内容のインタビューをお願いする場合がございます。対応可否は任意です。

## ■財源について

本ファンドの資金は、正会員・サポーター会員・つきつきサポーターから頂戴しました会費、「新年度 AKBN みくじ」キャンペーン参加者からのご寄付、以下、大口寄付者からのご寄付を活用させて頂いております。

### ▶大口寄付者・雪松直子さん（アカツキ代表理事・職員）からのコメント

私はアカツキの職員として、AKBN ファンドの助成先団体さんから「これまで、こんなに申請書を書くのが楽しい助成金はありませんでした」という声を寄せて頂いたことがあります。

よくよく何うと、「他の助成金は、採択と仕事の負担が増えることがセットであったけれど、立ち止まり対話する取り組みは、仲間と話し合う機会がつけられ、自分が抱えている悩みや困りごとが解消するかもしれない！というイメージが描けた」ということでした。

AKBN ファンドのプログラムを、理事含む組織の皆で時間をかけ細部まで丁寧につくってきて本当に良かったと感じましたし、今後も長く続いてほしいという想いから、今回、新たに寄付者という立場で関わってみよう！と決めました。

### ▶大口寄付者・末吉祥子税理士からのコメント

AKBN ファンドに参加させていただくようになって 5 期目、今では年中行事です。

いつもと違う人といつもと少し違うことをして新鮮だったり、いつもと違う角度からの質問に戸惑ったり、イベントのような習い事のような感覚を楽しんでいます。お付き合いいただける団体を募集します。

アカツキさんのコンサル・少額ですが助成金・私の実働の寄付の3点セット  
でのご提供です。皆さまとお会いすること、楽しみにしております。

### ■応募締め切り

【2024年7月7日（日）23:59】

\*選考結果は、7月下旬に応募団体への個別メールでお知らせします。  
また採択団体については、アカツキWebサイトでも発表いたします。

### ■公募説明会

同内容を2回、オンライン（Zoom）にて開催します。

- ・2023年6月12日（水）19:00～19:40（終了後20分間相談会）
- ・2023年6月15日（土）10:00～10:40（終了後20分間相談会）

参加を希望される方は、下記メールアドレスまでお申し込みください。

### ■説明会お申込／書類提出／お問い合わせ窓口

info@aka-tsuki.org（担当：永田）